



Yokohama Arts Foundation

令和2年6月26日
(公財)横浜市芸術文化振興財団
大佛次郎記念館

ゆかりの絵画が小学校へ ～兵藤和男《樹と道》 北方小学校に寄贈～

横浜に生まれ、横浜で活動した画家・兵藤和男は20歳の頃、40歳の頃、さらに60歳を過ぎてからも、一本の大きな樹を描き続けました。8年前に92歳で亡くなりましたが、その樹は今も生きています。それが北方小学校（横浜市中区）の東門脇にそびえ立っている椎の老樹です。

兵藤氏は病気で車椅子の生活になってから、一度この椎の樹を見に来ています。もう何年も言葉を口にすることがなかったのに、「ありがとう、ありがとう、ありがとう！」と、この樹に向って三回お礼を言いました。兵藤氏が生涯にわたって描き続けたこの樹への思いは、「この樹の周りを私の画家人生は巡っているみたいな感慨」と、画家自身が言葉にしています。

このたび兵藤氏のご遺族により、この樹を描いた油絵作品《樹と道》（1983年）が、大佛次郎記念館（横浜市中区）の特任研究員・猿渡紀代子の仲立ちにより、北方小学校に寄贈されました。

北方小の今野裕子校長は「このたびは本校にゆかりある絵画を寄贈いただき、うれしく思っています。新型コロナウイルスの影響で長らく休校を余儀なくされましたが、6月から学校再開にあたり、兵藤さんのこの画のエネルギーを子どもたちに感じてほしいと、校長室ではなく玄関に展示を決めました。ぜひ本物の樹といっしょに見てください。」と話しています。

画家・兵藤和男（1920-2012）について

輸出用絹物を商う家に生まれ、神奈川区に住む。一貫して独自の道を歩み、海岸通りや本牧など横浜の風景を多く描いてきた。作品は横浜美術館や神奈川県立近代美術館に収蔵されているほか、横浜市立大学附属病院（金沢区）の入口ホールでも見ることができる。第50回（平成13年度）横浜文化賞受賞（芸術）。



寄贈された作品《樹と道》

※7月6日14時から、兵藤和男氏ご遺族が北方小学校を訪問し絵画を鑑賞します。
ぜひ当日取材、情報掲載をお願い申し上げます。
※取材の際は、事前にご一報ください。広報用画像の提供が可能です。

お問い合わせ先 *本日は18:00まで在席しております。

大佛次郎記念館 【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】

館長：原田由布子 広報・イベント担当：大房奈央子

TEL：045-622-5002 mail：osaragi@yaf.or.jp